

映画祭にお越しいただいたみなさんから、多くの感想が寄せられました。その一部をご紹介します…①

広い大きな心を感じました。本当に心の底からありがとうございますと伝えたいです。自分の内側をじっくり見据えて生きてゆきたく考えておりますが、ここで観た映画が、私に元気を与えてくれるし、閉じているキモチを開くことも問うてくれる、とても良い機会です。(59歳女性)

「小三治」ぞうりを写すシーンがとても良かった。1分くらい写っていてもいいな。何かを語りかけてくるようで。

「大きな家」子どもたちの表情が実に良かった。大きくなったらどんな人になるのかな。日本中にあんな体験をした子どもたちが多くなれば、日本もゆったりとしたやさしい国になるだろうな。映像を深く考えられるようになったと思う。文章では行間を読むというが、映像の奥をというか、映像には写せないことまで考えられることもある。(61歳男性会社員)

1回目から来たかった。知らなくて残念!!ドキュメンタリーってほんとにすごいですね。いろんな人に観てほしいです。私に何ができるか、これから考えます。(43歳女性子育て中)

「小三治」の落語を初めて聞けてそのすばらしさがよく分かった。努力の人と礼儀の人であることがよく分かった。

「大きな家」で、早池峰の自然がよく分かった。7年間監督がどんなにして生活費を稼いでいたのかな。あんな所に住もうとされたことの勇氣はすごい。外国でも高く評価されるのに日本ではそうでないのは、日本人の感性が全くなくなっているのかな。(70歳男性)

「風のかたち」治療だけでなく

子どもたちの生活、家族、人生、生き方の支援や、子ども、細谷Drの心情が丁寧に描かれていて、大変興味深い映画でした。私は精神科診療所に勤務し、虐待をはじめ様々な問題を抱える子どもや家族と関わっていますが、この映画を拝見しながら、改めて今私が出来ることに力を尽くそうと思いました。「哀しい時に泣けなくなったら医師をやめようと思う」に、細谷先生の思いが伝わってきたように感じます。

「コンテスト」作品はどれも魅力溢れる作品で、大変良かったです。(42歳女性医療機関勤務)

「大きな家」自然の中で育つ子どもたちに感動しました。自然のすごさに圧倒され息を飲む思いをしつつ、人間もこんなにすごい自然ともおりあいをつけつつ生きていけるんだなあというのも感動でした。

「小三治」素の顔がすごく出ているという感じがして、よくこれだけのことを引き出していると思ったのですが、これがこの人の全部?これが本音かもしれないけど、別の顔もあるのでは?などと考えさせられて、小三治さんへの興味もわいてきます。(68歳女性)

「白い花はなぜ白い」母が闘病中です。渡辺さんの横顔の表情が、普段明るく元気な母が時折見せる表情と似ていました。胸が詰まりました。邪気のない気高い人がいたんだ。そして家族や多くの友人に見守られていたんだということを感じました。(47歳女性主婦)

映画祭に来たのも初めてで、ドキュメンタリー映画を観たのも初めてでした。あまりなじみがないのでどんなものか、という位の気持ちで観ていたのですが、

想像よりもおもしろく声を出して笑ってしまいました。(55歳女性会社員)

作品の上映だけでなく、トークがあるので、制作の意図や過程がわかってうれしいです。観る私達がぐいぐい引き込まれてしまうのは、監督ご自身の感動、受け止め(感性の豊かさ)があって作られたためでもあるのでしょうか。(66歳女性)

「白い花はなぜ白い」渡辺哲也さんという一人の映像作家について興味を持ちました。この人の作った作品を観てみたいです。また、牧野氏という植物学者にも興味を持ちました。(55歳女性会社員)

作品夫々に切り口が違っていて、おもしろく充実した二日間でした。「人と自然と」がテーマというのも興味をひかれた。いろんな意味でどの映画も自分にとっての広がりにつながっていくことを実感している。対談もおもしろかった。いろんなことを考えさせられた。たぶん失くしただろう感覚をこれからでも取り戻したいと思っている自分を再確認できた。(64歳女性主婦)

「小三治」という一人の生き方、考え方がじわっとにじみみ出ていてよかった。感動した。

「大きな家」前作の「タイマグラバあちゃん」を観てよかったので、同じ監督のドキュメントだと知って期待して観た。期待は裏切られなかった。次回作品を楽しみに待っています。

「白い花はなぜ白い」かけがえない友人への「レクイエム」の心があたたく伝わってきて、白い花とその心が美しいと思った。(72歳男性)

映画祭にお越しいただいたみなさんから、多くの感想が寄せられました。その一部をご紹介します…②

「バオバブの記憶」で、人々の暮らしの細部に興味をひかれた。特に食事のシーンでは、どんな味がするのか気になった。人間の生活や文化というのは、まずはじめに食べるということから、何を食べるか、どんな風に食べるかということからきていると改めて感じた。

●
この映画祭の作品を見て、ドキュメンタリー映画を今まで見なかったことが、自分は損をしていると思った。今後はドキュメンタリー映画も他の映画と同様に見るようにしたい。

●
それぞれに胸の奥があたたかくなる、テーマ「人と自然と」がひびく作品でした。初めてドキュメンタリー映画をしっかりとみて、映画の持っている力に感動しました。これからの人生に、生き方に、何かしら影響するかもしれません。本当にありがとうございました。(51歳女性)

●
「故郷の歌」すごく良かったです。是非、東京等でもやっていただきたいです。歌も素敵で元気をもらいました。他の作品もどれも伝えたい気持ちがたくさんつまっていて、埼玉から来てよかったな～と心から思いました。映画祭、これからも続けて頂きたいです。(23歳女性会社員)

●
「風のかたち」子どもは死んではいけない。多くの未来の夢を描きたかったろうに。でも短い命とつらい人生を選んで生まれてきた強い魂。「かわいそうだったね」ではなく「がんばったね」とたたえてあげたい。すばらしい一個の命の叙事詩を私たちに残して風のかたちに去っていった。いい思い出をありがとうございました。次男は平成三年に4歳11ヶ月

月で白血病で亡くなりました。(61歳男性自営)

●
「故郷の歌」スクリーンにこだわらず、主題が歌で、しかも大阪で聞けたという事が良かったです。

「風のかたち」学業保育のキャンプの裏方を手伝って7～8年。キャンプと子どもたちは、毎年新鮮ですね。(52歳男性ヘルパー)

●
「風のかたち」とても心に残る映画をありがとうございました。病院の中で一生懸命生きていこうと頑張っておられる方々を、更に何か役に立てることはないかと自分に問いかける今日でした。(65歳女性主婦)

●
「故郷の歌」音のみの作品なのに、目の前に映像が浮かびました。自分だけの映像が出来あがりました。感動をありがとうございました。(36歳女性会社員)

●
映画祭のことは今回初めて知って来ました。「風のかたち」を知ったのがきっかけでした。昔、映画が好きでよく出かけていましたが、最近は何もみることがありませんでした。今回、こんな映画祭のかたちがあるんだと、とても新鮮な気持ちになりました。これからも続けてほしいですし、また来たいと思います。作り手の思いが目の前で聞けておもしろかったです。ふだん、監督さんの話はなかなか聞けませんから。

●
「故郷の歌」映像がなくても十分に伝わる作品ですね。ただ製作者の意図が平凡すぎるのが不満です。ナザレ園の現状紹介であればそれはそれでいいですが、2009年につくる作品としては、差別と民族以上の視点が必要ではないですか。今日の各地でおこ

っている惨劇と重なり広がっていくものがなく、むしろ日韓関係の特殊性が浮かんできますね。(60歳男性会社員)

●
「小三治」音楽や語りが無い観察映画で良かったです。庶民の芸術である落語がよく分かりました。ただ、全国公演で落語を残す(広める)必要があるかは疑問です。

「白い花はなぜ白い」追悼のドキュメントで、残したものと伝えたいものが分かりました。映像の大切さが伝わってきました。「バオバブの記憶」21世紀はアフリカの世紀といわれ、内陸地の開発が行われると考えます。映画のようにゆっくりと流れる時間が失われると予想されます。日本の田舎にもゆっくりと流れる時間があるはずです。

「風のかたち」多数の子どものインタビューで全体像が分かりにくかったです。本と違って泣き虫の細谷氏が分かりました。映画祭への参加は2回目ですが、来年までまた1年、楽しみにしています。

●
「スクリーンのない映画」初めての体験でしたが、その人の気持ち、心がズシーンと心の中まで響いてきました。歌の中でお互いを理解し解放されるって素敵なことですね。(57歳女性主婦)

●
「大きな家」のたつあき君が言った『春が来た』という言葉がとても心に残りました。本当の生きることを思い出させてくれる気がしました。

●
「故郷の歌」には非常に感動致しました。映像がないことがむしろ心の世界に深く入っていくことができたと思います。人は役割を全うしなければならないと思いました。

映画祭にお越しいただいたみなさんから、多くの感想が寄せられました。その一部をご紹介します…③

「小三治」2倍、3倍楽しめた感じがしました。落語には興味がありましたが、弟子への役割、独演会での演目の思い、稽古の仕方、噺家の社会への役割、いろいろ感じるところがありました。小生達が経験している社会人落語とは少々違いますが、人生の目的意識が表された作品とドキュメンタリーが良かったですね！（56歳男性）

このような映像をちゃんとした所で観るのは初めてなので、とても新鮮でした。アットホームな感じで良かったです。

「小三治」謙虚さと自信がない混ぜになった師匠のダンディな素顔。ライブとはまた違った落語の緊迫感を大いに楽しませて頂きました。（44歳男性会社員）

「大きな家」「白い花はなぜ白い」生きるということ、死ぬということについて考えさせられました。好きな仕事をして生きるっていいなと思いました。自然の力、子どもの成長、自然の美しさ、渡辺さんの生き様、感じたものはもっとあるのですがうまく言葉が出てきません。（35歳女性）

上映後に監督の話があるのは、どういう意図が込められていたのかよく理解でき、より深く映画を見ることができてよいと思う。

この映画祭のことを初めて知って、ボランティアスタッフとして参加しました。作品の素晴らしさはもちろん、運営スタッフの皆さんの情熱に感動しました。見ることでできた作品は全てすごく良かったです。

特に、世界初の試み「故郷の歌」は心打たれました。ドキュメンタリー映画ならではの深い感動

を、今のこの時世、できるだけ沢山のの人に味わってもらいたいと強く思いました。（50歳女性）

「川の記憶」はとても新鮮な印象を受けました。多摩川に色々な魚が住んでいることも初めて知りました。中本賢さんの生き方、子育てにも感銘を受けました。

「故郷の歌」はすばらしかったです。映像がないので初めは驚きましたが、かえってそれが良かったみたい。じっと目をつぶって聞き入ってしまいました。

（55歳女性会社員）

ドキュメンタリーというのはノンフィクションだけど、ドラマチックだなと思いました。

「コンテスト」の作品は、反対にドラマチックとかでなく身近に感じました。

「大きな家」に出てくる子どもたちがタイマグラに住んでいたことが将来どんなふうになるか楽しみだ。人はやはり自然と直接触れ合うことにより、生き物としての本来の姿が研ぎすまされるので、よりよい人間形成に大変重要だと感じ再認識しました。（54歳男性）

どれも素晴らしかったが、特に「風のかたち」が良かったです。病氣と治そうとする子どもの姿、それに関わる医療関係の人々の苦悩、現場の大変さがテレビドラマではなく本当の姿が見れ、キャンプという自然にふれることで心が通じ合う姿も印象に残りました。

「アザラシ」の話しも考えさせられ、アマチュアとは思えない出来でした。

「バオバブの記憶」最近地球の歩き方の“マダガスカル”を毎日読んでいます。バオバブの木

にあこがれ、いつか会ってギューってしたいと思っています。大地の許しを得て芽を出すという言葉に、とてもあったかさを感じました。監督さんの“豊かさとは？”との問い、自分ではまだ答えが出ません。でも、自分の大切な人、大切にしたい思いは大事にしていこうと思います。（36歳女性花屋）

「川の記憶」はテレビで見たことがあり、改めて見て良かったです。その他も初めて見て内容の濃さに驚きを感じました。ドキュメンタリー映画を外で見ることが初めての体験でとても良かったです。

「バオバブの記憶」映像で初めてそのすごさ（本当に1000年生き続けるの）にびっくりし、それを大切にするセネガルの人々の姿は、鎮守の森を守った日本人の姿とダブった。

「故郷の歌」は本当に素晴らしかった。慶州の風景を思いながらナザレ園の姿ははっきり見えてきました。堺にある在日のオモニの姿もぜひ取材してほしい。唱歌に涙するところに私も涙した。

「川の記憶」多摩川の魚の生態がよく分かった。中本親子の子ども時代と青年になった子との断絶を気にしない賢さんのすごさ。

「風のかたち」「生きる」ということ、また、生命の尊さについて改めて深く考えさせられました。トーク時に石澤監督が、伊勢監督のドキュメンタリーで使われている音だけで映像が想像できるということをおっしゃっていましたが、本当にその通りで、大変想像力を刺激されました。（34歳女性事務員）

2日間良かったです。残しておきたい記憶です。